

特集

税務実務家インタビュー!!

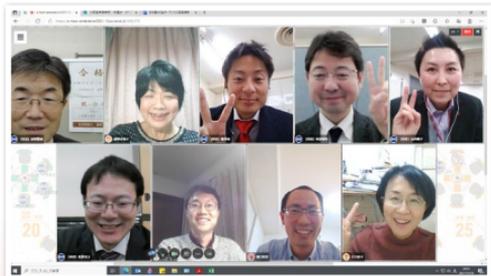
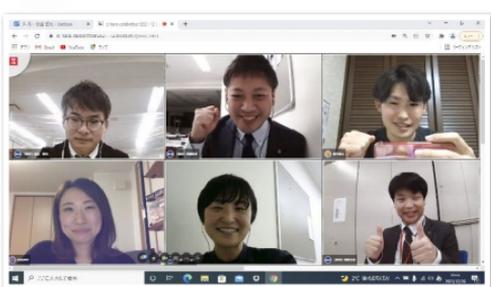
第一弾 山中朋文税理士事務所 山中朋文先生



祝



Congratulations!



年が明けてからの学習は順調に進んでおりますでしょうか。まさに今繁忙期を迎えているという方も多いかと思います。この時期は約1ヶ月後から順次開始される模擬試験に向けての準備や新たなインプットなど、学習面でも「繁忙期」となりますが、合格するためにはこの壁を乗り越えなければいけません。このような時期だからこそ、学習計画の基本である「やるべきことを洗い出し」、「優先順位」を付けて学習を継続していくことが大切です。また、5～10分程度の細切れ時間も有効に活用しましょう。

例えば、理論であればタイトルごとの内容はどのようなものか?を把握しておくだけでも後々の効果は違いますので、理論テキストにある「要旨」などを使って理論の骨子を掴んだり、タイトル挙げを行うなどの方法があります。また、計算であれば、電卓は叩かずに計算算式のみ組むなど簡便的に問題を解答することも有効です。また、要点チェックノートを使用した確認も短時間で行うことができます。「短時間で確認サイクルを増やすこと」が繁忙期における学習のポイントと言えるでしょう。

この「繁忙期」を乗り越えて、合格に向けて突き進んでいきましょう!

税務実務家インタビュー!!

第一弾 山中朋文税理士事務所 山中朋文先生

今号より、受験生の皆様に税務実務業界を知っていただくため、税理士の先生、税理士法人様へ行ったインタビュー記事を掲載いたします。第一弾は自由が丘で独立開業されている山中朋文先生にインタビューをいたしました。



(山中朋文先生)

税理士を目指したきっかけ、受験勉強時代

——— まず初めに税理士を目指したきっかけを教えてください。

山中先生 父親が税理士であった影響が大きいです。ただ独立はしておらず、勤務税理士として働いていました。また、母親が商店を営んでおりました。幼少の頃にお店（自宅）に出入りする税理士を見ていました。そのような中で将来の選択肢として自然と税理士を意識していました。

——— 小さいころから税理士が身近な存在であったわけですね。

山中先生 はい。個人商店からすると税理士は無くてはならない存在という印象でした。

——— 税理士に向けて学習を始めたのはいつ頃からでしょうか。

山中先生 元々算数や数学（数字）が好きだったこともあり、税理士を目指そうと思ったのは高校生の時でした。大学2年の時に簿記3級、大学3年の時に簿記2級を大原で学習しました。大学4年の時は部活と大学院の受験勉強があったので、税理士試験の受験は大学院1年の時が最初です。簿記論を受験しましたが、ほぼ記念受験に近かったです…笑

——— 大学院に進学されたのですね。

山中先生 はい。両親の理解もあって大学院に進みました。父親が税理士でしたので、働きながら勉強する大変さも教えられました。

——— その後の学習はどうだったのでしょうか。

山中先生 大学院1年の9月から簿財の学習を始めました。財務諸表論は一発で合格したのですが、簿記論は不合格でした。その翌年、大学院卒業後の8月に簿記論を受験し、合格しました。

——— 受験生時代に苦労されたことはありますか。

山中先生 苦労ばかりでした…笑。家で勉強できないタイプであったので、朝から夜まで自習室にいました。

——— 当時は講師によく質問されてましたか。

山中先生 してましたね。講義が終わったらすぐに質問をしていました。その日に生じた疑問はその日のうちに解決しないと嫌だったので。

——— 複数科目を学習していると学習項目もすぐに溜まってしまいますよね。

山中先生 そうですね。そうなる前にすぐに疑問点は解決しようと決めていました。

——— 学習をするうえで気をつけていたことはありますか。

山中先生 とにかく自信を持って解答できるようになるまで問題を繰り返し解答していました。理論も書いて覚えていました。また、模擬試験などでは上位3割が目標と言われていましたが、そこで満足せず上位5%を目指していました。

——— 上位5%ですか。

山中先生 はい。いくら勉強しても本試験では見慣れない項目が出題されますよね。上位5%だと、見慣れない項目が出題されても「周りの人も解けないから大丈夫」と思えるんですよ。本試験の会場の雰囲気にも飲み込まれずに自信を持って解答ができますし、担当講師からも「山中さんくらい勉強している人はいないから大丈夫！」と言われたのでそれも自信につながりました。

——— なるほど。確かにおっしゃるとおりですね。

山中先生 講義内での模擬試験は本番だと思って緊張感をもって解答、本試験は普段の模擬試験だと思って、リラックスして解答することを心掛けてました。

——— 次に就職後のことについてお聞かせください。最初に勤められていた時のことを教えていただけますか。

山中先生 税務実務経験もなかったので、就職できるかどうか不安だったことを覚えています。その後、税理士会の職業案内所を通じて事務所から声を掛けられ就職しました。就職に向けて、税法の知識が無かったことが不安でしたので、本試験後から12月まで大原の実務力養成シリーズを受講していました。

——— 受験勉強の他にも就職に向けて準備をされていたのですね。

山中先生 はい。その他にもパソコンのスキルが身に付けられる講座も受講していました。

——— 実際に働いてみていかがだったでしょうか。

山中先生 大学院を卒業したことで税法科目が免除だったので、税法の知識は仕事の中で吸収するようになりました。本などもたくさん読みましたし、分からないことは先輩にも聞いていました。

——— 受験生時代と同じですね。

山中先生 そうですね。結局は受験生時代とやっていることは変わらなかったです。大原で税理士試験の学習をし、実際に合格できたという自信があったので、同じことをやれば大丈夫と思っていました。就職に関して不安に思われている方も多いと思いますが、受験生時代の経験は仕事に必ず活きますので、今やっていることに自信を持ってください。

——— では、独立を意識されたのはいつ頃でしょうか。

山中先生 入社したときから考えていました。入社した当初は5年くらいで独立しようと思っていましたが、色々なことを経験させていただけた事務所であり、そこから学ぶことも多かったので、結果的には10年間お世話になりました。また、自分自身で満足した知識を付けてから独立しようと思っていましたが、先輩の税理士から「いつまでたっても満足する知識の習得はないよ」と言われました。その時を待ってはいつまでも独立できないと思ったことが独立を決意するきっかけとなりました。

——— 当初から独立を意識されていたのですね。

山中先生 はい。事務所時代には、担当させていただいた、経営者であるお客様は人生のどこかで経営者になるという大きな決断をしていると感じ、そのお客様（経営者）がどのようなビジョンを持っているのか聞くようにしてました。その話を聞いてるうちに自分の事務所を作り、自分も経営者になって、同じ立場でお客様を助けたいという思いが強くなりました。事務所勤務時代はサラリーマンという立場だったので、税務相談をしても評論家っぽくなってしまいうんですね。お客様である経営者が本当に信頼しているのは誰かという、同じ立場の所長なんです。なぜかという、所長が事務所の経営者だからです。税理士は評論家ではなく、税理士は経営者でなければいけないと思っています。



——— **独立した時のお話を聞かせていただけますか。**

山中先生 最初は大変でした…笑 一番初めのお客様は知人や学生時代の知り合いからスタートし、そこから紹介や口コミで徐々に広がっていきました。昔、お世話になった人に自分は助けられましたので、受験生の皆さんは今の自分の人脈を大事にしてください。この仕事について、お世話になった人たちに税のプロ、専門家としてお役に立ちたい、恩返しをしたいと思っています。そのことは今の事務所のスタッフにも話しています。

——— **人と人とのつながりがあってこそその仕事ですね。**

山中先生 そうですね。お客様は誰に相談して良いかわかりません。一番身近な士業が税理士なのですが、知り合いに税理士はそういないですよ。ですから、そういう人たちの悩みを解決し、役に立ちたいと思っています。まだまだ税理士を必要としている人は沢山います。

自由が丘という場所で相続対策、創業支援に強い山中という税理士がいるよってことをひとりでも多くの方に知っていただきたいと思っています。そのような紹介者となり得る方を沢山作っていきたいですね。

——— **事務所のスタッフに対してはいかがでしょうか。**

山中先生 所長として同じ思いを共有できるスタッフを育てるように努力しています。同じ思いを持っている人と一緒に働きたいです。

——— **チームで同じ方向を向くことは大事ですね。**

山中先生 最初から同じ思いを共有することはできないので、開業当初から自分の思いを言い続けてきました。スタッフが働きやすい環境作り、スタッフの成長度と事務所満足度の向上が事務所の最優先事項と言い続けています。また、働いているスタッフがどんどん成長していく環境を作ることが目標です。

——— **具体的にはどのような環境でしょうか。**

山中先生 今働いている職場がスタッフにとって満足かどうかです。満足しているとどんどんスタッフの力は伸びていきます。また、スタッフが辞めなければ安定したサービスを提供できると思っているため、スタッフ満足度を上げると事務所の経営自体も安定します。

——— **事務所の今後について聞かせていただけますか。**

山中先生 スタッフ20名、顧問先300件が目標です。独立後、10年で達成しようと思っていました。すでに8年が経過しているのでペースを上げていかないとですね…汗

——— **どのような方と一緒に仕事がしたいですか。**

山中先生 明るくて人と話すのが好きな方が良いですね。税理士は社長と話す機会がたくさんありますが、時には社長にアドバイスをし、時には励まし、支え合っていきます。そういったことを考えると人と話すのが好きなことは大きな武器になります。また、税理士は相談役でもあるため、お客様の悩みが何処にあるかを理解することも大事なので、聴く力も大事ですね。それと、持っている知識を専門用語を使わずに分かりやすく目の前にいるお客様に説明しないといけないですし、さらに一歩進んだ提案力も必要です。今後税理士に求められるものは聴く力と提案力だと思っています。

——— **就職に対する不安をお持ちの方もいらっしゃるので、その方にメッセージをお願いいたします。**

山中先生 私も税務実務が未経験で就職する時は不安でした。不安なのは自分だけではありません。税務実務の経験がゼロの人は多くいらっしゃると思いますが、私はその0を1にすることをお手伝いしたいと思っています。弊社では、税理士試験勉強中のスタッフは大原の授業がある日はそちらを優先し、仕事と勉強を両立できるようにサポートもしております。

受験生へのメッセージ

————— 税理士になって良かったと思うこと、魅力などを教えてください。

山中先生 税理士としてお客様をサポートすることで、税理士さんって素晴らしい、頼りになる、直接「ありがとう」と言っていただけることが魅力です。税理士はお客様の人生を変えられる、そんな素晴らしい仕事だと思います。考えてみてください。その会社の社長の考えが変わればその会社が変わり、その会社が変わればそこで働いているスタッフ、その家族の生活も良くすることができるんですよ。

————— **我々（大原の講師）も直接ありがとうと言っていたく機会がありますが、本当に嬉しいですよね。**

山中先生 こんなにありがたい仕事はないですね。

————— **最後にメッセージをお願いいたします。**

山中先生 まずは人とのつながりを大事にしてください。将来、必ずその人に助けられるときが訪れます。次に様々な分野に興味を持ち、それを突き詰めていってください。好奇心を持ち、何事にもチャレンジすることを大事にしてください。物事は失敗の連続だから失敗してもくじける必要はないです。野球でいえば、3割打てば一流選手と言われています。そんな打者でも7割は失敗しているわけです。

ですから、失敗を恐れずに能動的に動いてください。そのような人は成長します。税理士試験や仕事の習得、お客様の信頼を得るのも早いです。ぜひ、この業界で一緒に活躍していきましょう！！

————— **ありがとうございました。**



山中朋文税理士事務所 (<https://bestax.jp/>)

所在地：東京都 世田谷区奥沢5-24-7グリーンヒルズ自由が丘403

O-HARA Career Staff

採用スケジュールについて

今回は、税理士業界の採用スケジュールについてお話しします。

試験勉強をしながら、就職・転職活動を行う方も多いと思いますので、ベストな時期を知り効率よく活動していきましょう。

採用のピークは8月と12月

税理士業界の主な年間スケジュール



1月
繁忙期
(12月～5月頃)

4月
新人入社
業務が少し落ち着く

8月
税理士試験
就職面談会
(試験終了後)

9月
新人入社

採用活動ピーク①

繁忙期に向けての準備

12月
税理士試験合格発表
就職面談会
(合格発表後)

繁忙期突入

「税理士試験が終わるまでは勉強を優先したい」「合格科目が増えてから就職したい」という方も多いため、採用のピークは8月（税理士試験終了の直後）と、12月（税理士試験の結果発表前後）となります。

ピークを過ぎると採用は一旦落ち着きますが、予定人数に達しなかった場合や急遽欠員が出た場合、良い方がいたら採用しようという意欲のあるところは継続して募集をかけているので、最近では通年採用を取り入れているところも増えてきています。

また、新人入社のピークは4月と9月です。転職の方などは個々の状況に応じて入社日が決まる場合が多いですが、大手税理士法人などは、集団研修を行うところもあるので、入社時期をある程度まとめているようです。

また、新卒採用を行っている事務所・法人もありますが、そちらの情報解禁は、3月頃としているところが多いです。

就活のタイミング

就活を開始するおすすめのタイミングは、ご自身が就職したいと思う時期の『半年前』頃です。

人員の配置や必要な採用人数が確定してくるのが半年前頃なので、採用側が内定を出しやすくなります。

もし内定が得られなくても、ピーク時に再度就活をすればいいので、チャンスも広がります。

また、就活を始める際は、最初に紹介会社に登録するのがおすすめです。理由は、紹介会社の担当者との面談により、自分の保有資格や経験について客観的な市場価値を知ることができますし、就活に対する相談やアドバイスを聞くことができるため、その後の活動に役立つはずですよ。

また、求人を紹介してもらえたり、面接のセッティングや条件面の交渉を手伝ってもらえるというメリットもあります。

就職・転職に関するご相談は

大原キャリアスタッフ

<https://www.o-hara.ac.jp/career/>

※エリアによりサービス内容が異なります。

次回のVol. 5号は5月発刊の予定となります。

WIN

ウィンVol.4

●第26巻第4号通巻221号 ●2022年2月26日発行

●発行所/大原簿記学校 〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10



最新の受験情報満載!

大原の税理士メルマガ 毎月無料配信中!

メルマガ登録はこちらから <http://www.o-hara.ac.jp/goukaku>

大原 メルマガ 検索